

学校自己評価

学校法人 ザイナスアカデミー 田北調理師専門学校 学校自己評価報告書 (令和2年度)

評価項目の達成及び取り組み状況

(1) 教育理念・目標

適切…4、ほぼ適切…3、やや適切…2、不適切…1

評価項目	自己評価	学校評価
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	3	3
・学校における職業教育の特色は何か	4	
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想は抱いているか	3	
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3	
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	

課題

- ・教員による現場とのコミュニティーが取れているのか検証する必要があるのではないか。
- ・料理人になる事がどう言う事なのか？という根本的問いかけに対して明確に答えられる学生がはたして何人いて、覚悟があるかどうか疑問である。

今後の改善方策

- ・基礎的な部分、料理の楽しさや華やかさ、責任感を養う上でもっと明確に指導者の役割分担を決めます。
- ・業界のニーズに対応出来るような人材の育成を行います。

特記事項

- ・外部からのプロフェッショナルな調理、サービス（ソムリエ等）など、時には東京からミュッシュランシェフを招聘する位の特別授業を試みて良い。学生がこの世界の厳しさを知った上で、なお憧れる事が大切です。

(2) 学校運営

適切…4、ほぼ適切…3、やや適切…2、不適切…1

評価項目	自己評価	学校評価
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	3	3
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3	
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3	
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3	
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3	
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3	
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2	

課題

- ・運営方針や事業計画、予算等を再構築する必要がある。

今後の改善方策

- ・業務内容の効率化、情報の共有、広報活動等を大々的に見直していくようにします。
- ・事業計画、予算等年度初めに各科より提出させ、年度ごとに策定します。

(3) 教育活動

適切…4、ほぼ適切…3、やや適切…2、不適切…1

評価項目	自己評価	学校評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3	3
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3	
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3	
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3	
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3	
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3	
・授業評価の実施・評価体制はあるか	2	
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	2	
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3	
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3	
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3	
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	2	
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	2	

課題

- ・授業評価の実施・評価、職業教育に対する外部関係者からの評価が不十分である。

今後の改善方策

- ・実施出来てないところは体制を再構築します。

(4) 学修成果

適切…4、ほぼ適切…3、やや適切…2、不適切…1

評価項目	自己評価	学校評価
・就職率の向上が図られているか	4	3
・資格取得率の向上が図られているか	4	
・退学率の低減が図られているか	3	
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2	

課題

- ・卒業生に関する情報の把握が十分ではない。
- ・就職率向上の為に就職斡旋になっていないか。
- ・学生意識、能力、将来の展望に沿ったプランを考えなければ、たとえ就職したとしても離職率も向上してしまう。

今後の改善方策

- ・SNSなどを活用し、卒業生の動向を注視していく。
- ・卒業生の離職率を踏えて今後のデータとして、その学生にあったプラン構成も必要です。
- ・求人情報を常に最新の者を掲示、担任、キャリアサポート等個人面談を増やし学生の意識を高めていく

特記事項

- ・就職先も偏った傾向が見られ、料理の世界は日に日に移動し、良い店も入れ変わっている。新たな料理関係者との繋がりを増し、学生への料理界への門を広げるべき。

(5) 学生支援

適切…4、ほぼ適切…3、やや適切…2、不適切…1

評価項目	自己評価	学校評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3
・学生相談に関する体制は整備されているか	3	
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3	
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	
・学生の生活環境への支援は行われているか	4	
・保護者と適切に連携しているか	3	
・卒業生への支援体制はあるか	3	
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3	
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3	

課題

- ・各支援体制の再構築が必要である。

今後の改善方策

- ・経済的支援については授業料免除等があるが、経済的困窮学生やアルバイト（学費補助）学生に対する支援体制について検討します。

(6) 教育環境

適切…4、ほぼ適切…3、やや適切…2、不適切…1

評価項目	自己評価	学校評価
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3
・学内外の実習施設、インターンシップ、について十分な教育体制を整備しているか	3	
・防災に対する体制は整備されているか	3	

課題

- ・改築をした3階、4階のスカイデッキ、1階フリースペースの有効活用。

- ・防災設備の見直し

今後の改善方策

- ・各スペースの有効活用
- ・防災計画の作成

(7). 学生の受入れ募集

適切…4、ほぼ適切…3、やや適切…2、不適切…1

評価項目	自己評価	学校評価
・学生募集活動は、適切に行われているか	3	3
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3	
・学納金は妥当なものとなっているか	3	

課題

- ・社会の少子化現象に伴って18才人口（高校新卒者）の激減の今日、専修学校、大学共に学生募集については難関の一つです。これを何としても打開しなければ、本校の生き残りはないと云える程の課題です。

今後の改善方策

- ・実際現在のところ、これと云った改善策はないのが事実です。しかし、現状維持そして発展していくためには、歴史を重んじ地道に教育を実施すると同時に、現代社会のニーズに応えるべく、この機会に「職業実践専門課程」を大いに生かした教育の実現をしなければならぬと教職員一丸となって努力します。

(8). 財務

適切…4、ほぼ適切…3、やや適切…2、不適切…1

評価項目	自己評価	学校評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	4
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3	
・財務について会計監査が適切に行われているか	4	
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	

課題

- ・全面的に公開評価してもらったが、毎年、学院の財務をどこまで公開すればよいか。

今後の改善方策

- ・企業等の方々、保護者は回答してもらえなかったもので、今後は税理士と相談して検討します。

(9). 法令等の遵守

適切…4、ほぼ適切…3、やや適切…2、不適切…1

評価項目	自己評価	学校評価
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3	3
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3	
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3	
・自己評価結果を公開しているか	4	

課題

- ・専修学校設置基準、個人情報に関する保護など、法令等については、教職員も関心がなく、どこまで正しい評価かどうか疑問が残る。

今後の改善方策

- ・昨年に続き専修学校設置基準等はプリントを事前に配布して熟読してもらおう。また、学校評価等についても事前に配布し内容を理解してもらった上で回答してもらおう。

(10). 社会貢献・地域貢献

適切…4、ほぼ適切…3、やや適切…2、不適切…1

評価項目	自己評価	学校評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	3
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3	
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	

課題

・本校は調理師養成校といった特色を持っているため、企業、地域より料理教室、菓子教室等の講演、実習室使用等の依頼が頻繁にあるけれど、授業との関係でなかなか受諾することが困難である。

今後の改善方策

- ・夏休み等の長期休暇を利用しての講演、実習の受託
- ・教育課程編成委員の方々より来年に向けてこれらも考慮に入れた良いカリキュラムを検討してもらいます。ボランティア活動も月2回地域清掃を行っているが、授業に影響のない範囲で増やすことを検討しています。
- ・年一回の学院祭、田北マルシェの時、学生中心になってバザーを実施して、その売上金の一部を日本赤十字協会等に寄附しています。

(11). 国際交流（必要に応じて）

適切…4、ほぼ適切…3、やや適切…2、不適切…1

評価項目	自己評価	学校評価
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	2	2
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	2	
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3	
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2	

課題

・留学生の応募自体がない為、特に準備はしていない。

今後の改善方策

- ・日本語学校等からニーズを把握し、需要が見込めればすぐに受け入れ態勢を整える事ができるよう準備をしておく。

学校関係者評価

学校法人 ザイナスアカデミー 田北調理師専門学校

学校関係者評価報告書 (令和2年度)

1. 目的

学校関係者評価委員会(以下、当委員会)は、田北調理師専門学校 学校関係者評価委員会規程に基づき、田北調理師専門学校(以下、本校)の自己点検・評価の結果について客観性と透明性を高めるとともに、学外の関係者から専門的な助言を得るため、外部評価を実施する機関として当委員会を組織した。当委員会は、本校の自己点検・評価を資料として、自己点検・評価委員会の内部評価を参考にし、さらに関係教職員との具体的な意見交換等を通して、本校の学校運営・教育活動について検証・評価及び助言を行うことを目的として実施している。当委員会委員は本校の教育理念を理解し、人材育成等に精通した学外の関係者の中から校長が選考し、委嘱している。自己点検・評価報告書を資料として、当委員会としての評価・助言を取りまとめ、本報告書を作成した。

2. 2019年度学校関係者評価委員会開催概要

第1回

① 開催日時

2021年5月10日(月) 13:00~15:30

② 場所

田北調理師専門学校 第2講義室

③出席者(敬称略)

小野秀幸(株式会社まるひで代表取締役) 薬師寺十郎(株式会社まるひで顧問) 鶴岡英明(株式会社イジゲン代表取締役) 森田孝行(大分の食文化を伝える会事務局) 瀬戸幸弘(卒業生) 白井由紀子(別府溝部学園高等学校教員)

3. 学校関係者評価委員による自己点検・評価の重点評価項目への提言

(1)教育理念

【現状の課題点】

現状は充実した設備やカリキュラム等の教育環境は整備されており、理念・目的・育成人材像も教職員間、学校案内書と学生間にも周知されているが、それらの学外への周知に関しては改善の余地がある。ホームページによる情報公開を行い、その内容も随時更新していくことが必要であると考えられる。

【学校関係者評価委員からの提言】

①学生指導において、こういった理念を元にされていたと思うと感動した。

これを続ける事で、2025年の目標を達成できるのではないか。

②現場で通用するような実践的な指導を頂いたことに感謝している。

③卒業生の現状の確認についてはどの程度把握できているか。各教員がやってみせる、言って聞かせてさせてみる。その上ではほめる事で人は動くので、教育においてほめる事は重要であると考え。

(2) 学校運営

【現状の課題点】

中・長期的には学生数の増減や求められる人材像の変化等、外部環境の変化に対応できる体制を構築することが必要となる。教育課程編成委員会を組織図の中に組み込み、企業と連携しながら業界の動向をカリキュラム、人材育成に反映できる体制を整えることが必要である。

【学校関係者評価委員からの提言】

①学校運営に関して特に問題点は見受けられない。健全な学校運営をしていると評価する。

(3) 教育活動

【現状の課題点】

教育活動の課題点と解決方法に関しては、教育課程編成委員会の本分であり、教育現場の意見をくみ取りながら業界のニーズや動向を把握し、適格な教職員の育成・教育内容の改善を図る。そのための今後の取り組みとしては、教育課程編成委員会が機能するように、学校法人ザイナスアカデミーの長期的なビジョンを認識した上で計画的な人材育成と授業内容のカリキュラムの改善を提案できる環境を作る。現場からの意見の汲み取りや、どこまでの業界を把握すればいいか等、どのような方法が当学校に適合しているかどうかを把握し、定着させるためにPDCAサイクルを回しながら検討を行う。

次年度に向けては、より体系的カリキュラムを構築するために、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの3ポリシーを明確化し、より養成する人材像を目的としたカリキュラム内容とすることとする。

【学校関係者評価委員からの提言】

①授業で商品を使用して頂いたことが今までない。一般の方が手軽に作れるレシピがあればよい。ホームページでの掲載も検討可能である。

②海外では日本料理に人気がある。留学生向けのオープンキャンパスやホームページを積極的に活用海外の留学生へのアピールにつながるのではないか。

(4) 学習成果

【現状の課題点】

現状としては就職率や、学生の就職活動状況は把握できている。今後の課題としては在校生に就職に関する有用な情報を提供できる環境と、それらをザイナスアカデミーのノウハウとして構築する体制が必要となる。就職率の向上に加え、就職をゴールとした教育内容ではなく、田北調理師専門学校で習得した調理や製菓を通じた自己実現が社会のどのようなことに貢献できるのか、当校が長期的なビジョンを描ける場の一つとなることが重要であると考え。

これらの課題を解決するために、卒業生の退職事由の把握、卒業生からの意見を取り入れ、学生が学校に

何を望んでいて、就職先ではどんな能力が求められているのかを的確に認識できるように努める。

【学校関係者評価委員からの提言】

- ①食育の重要性が注目されている。様々な分野で教える事ができるようになる事が望ましい。複数の資格取得により、将来の幅が広がる。
- ②退学率を抑えるための対策として、こまめに連絡を取る事に共感した。自社新入社員が、心の病気にかかる者が例年より多かった。月1回のフォローアップ面談など、より一層の細やかなケアが重要だと感じている。

(5) 学生支援

【現状の課題点】

利害関係がない卒業生の意見は公平であり、今後の当校の改善方法を示す重要なヒントになると考えられる。協力的な卒業生は当校にいい印象があるため、評価の高い意見を聞けるかもしれないが、重要なのは不満を持ちながら卒業した生徒もいるに違いないため、そういった卒業生がなぜ不満を持っていたのか、どこを変えればよかったのかという意見を得ることができる場を設ける工夫が必要である。

【学校関係者評価委員からの提言】

- ①インターンシップ時の賃金について、企業が出すのであれば固辞する必要はない。衛生教育や挨拶など貴重な学びの場となるので、より一層力を入れるべきである。
- ②インターンシップについて、有給となれば予算の関係上、人数の絞り込みを行う必要が出てくる。期間が1ヶ月以上の場合、雇用が発生し有給となり諸手続きが必要となる。

(6) 教育環境

【現状の課題点】

インターンシップの提携先に関しては今後、数を増やしていく予定だが、その選定に関しては慎重を要する。実習の質を落としてしまっはは何もならない。提携先の実習担当者との打合せ、学生の要望や就職先が求める能力を最優先の判断基準とし、現状の判断基準に囚われない、幅広い視野での選定を行う。

【学校関係者評価委員からの提言】

- ①入学を希望する高校生などの学費の問い合わせも多く、そのサポートの強化がより必要になってきている。保護者が学生の進学に対して相談しやすい体制を作る事が課題である。

【学校関係者評価委員からの提言】

- ①高等教育、保育料の無償化について対象校となるような情報収集が必要である。

(8) 財務

【現状の課題点】

高等教育の負担軽減の機関要件を満たすためには、その要件に際して、引き続き財務状況の情報公開が求められる。ホームページ上での情報公開が必要。

【学校関係者評価委員からの提言】

- ①校長が一本化している事で、足並みを揃えて同法人の関連学校が集まり協議できている。18歳人口が減少する中でも、どういう学生を育成するか、校訓の意味を理解し指導する事で道は開かれ、安定した学校

運営ができると考える。

(9) 法令等の遵守

【現状の課題点】

今の状況では特に課題点は目立っていない。しかし情報管理、特に個人情報の取り扱いの一つ間違ふと信頼の失墜につながる。現段階でも表に出ていないだけで問題がないとは言い切れない。今後もセキュリティに関しては教職員だけでなく、学生も含めて組織全体で意識を高めていく。

【学校関係者評価委員からの提言】

①特に課題点は見受けられない。健全な運営をしていると評価する。

(10) 社会貢献

【現状の課題点】

ボランティア活動は学生にとっては貴重な社会の体験となるため、当校では推奨しているが、学生からの活動内容の報告をくみ取る仕組みが不十分であることが課題である。それらの就職活動への強みとなるだけでなく、自分の可能性の幅を広げるヒントになる。ボランティア活動を評価するだけでなく、それらの体験が貴重であることを気付かせ、様々な知的好奇心を助長し、行動を促す取り組みが必要であると考えられる。

【学校関係者評価委員からの提言】

①産官学接続について、大分県と連携し宣伝として何か取り組みを行うことができれば望ましい。

②地域が抱える問題について、例えば商店街の活性化において、商店街と学校をつなぐ役割を担えればと考えている。

②不定期開催のマルシェで弁当や焼菓子を作成しているが、商品開発において、調理製菓の部分で講師派遣やコラボなど連携していきたい。これらの課題に対し委員から頂いた提言を真摯に受け止め、教職員一丸となり一つひとつ課題を解決し、業界を牽引する人材の輩出に取り組んでいく所存である。